

## 紙上座談会

教育的投資として位置づけよ  
支援の質高める持続可能な仕組みづくり

## 【参考者】

佐藤秀隆氏(東北文化学園大学健康管理センター所長)  
中西敏氏(十文字学園女子大学学生総合相談センター長)  
中川和美氏(東京工科大学ヘルスサポートセンター長)  
伊藤守弘氏(中部大学学生サポートセンター長)  
ノタ一チーケースコーディネーター

田原香子氏(関西福祉科学大学キャンパスライサポートセンター副センター長)

伊藤・本学のピアサポート

原・執行部は障害学生支

援を行っていませんし

かし、創意の高い学

生として接するときに焦

ります。過去の実施経験

から、対象学生を限定す

ことは大切だと思います。

運営上層部が理解を不

可性がありますので、

側の経験にも左右される

可能性がありますので、

運用しながら随時修正し

ていくことで、実効性の

高まります。また、自分

の知識や経験をもとに考

えられます。

中川・本学ではピアサ

ポートによる障害学生支

援の有無を考慮して、多

様な学生の一員として関

わる実践を行つてこども考

えられます。

伊藤・本学のピアサ

ポートは、「公平な学

びの機会の提供を、日

常の学生支援を拡大する

機会と考えています。医

師をはじめ、心理士や作

業療法士など援助専門職

が介入するケータイ電話

の機会と組織の専門性を

両立させることが可能

と思われます。

○ピアサポートと居

場所の創出

――次の質問です。ピ

アサポートが機能する上

にあたっては、誰にどう

のような場合に、どうい

う判断を委ねるのかを

明確にする必要がありま

すね。また、議論される

側もメリットだけでなく

デメリットも理解した上

で責任をもつて対応に

あたる組みが不可欠で

思っています。

伊藤・本学のピアサ

ポートは、「公平な学

びの機会の提供を、日

常の学生支援を拡大する

機会と考えています。医

師をはじめ、心理士や作

業療法士など援助専門職

が介入するケータイ電話

の機会と組織の専門性を

両立させることが可能

と思われます。

○ピアサポートと居

場所の創出

――次の質問です。ピ

アサポートが機能する上

にあたっては、誰にどう

のような場合に、どうい

う判断を委ねるのかを

明確にする必要がありま

すね。また、議論される

側もメリットだけでなく

デメリットも理解した上

で責任をもつて対応に

あたる組みが不可欠で

思っています。

伊藤・本学のピアサ

ポートは、「公平な学

びの機会の提供を、日

常の学生支援を拡大する

機会と考えています。医

師をはじめ、心理士や作

業療法士など援助専門職

が介入するケータイ電話

の機会と組織の専門性を

両立させることが可能

と思われます。

○ピアサポートと居

場所の創出

――次の質問です。ピ

アサポートが機能する上

にあたっては、誰にどう

のような場合に、どうい

う判断を委ねるのかを

明確にする必要がありま

すね。また、議論される

側もメリットだけでなく

デメリットも理解した上

で責任をもつて対応に

あたる組みが不可欠で

思っています。

伊藤・本学のピアサ

ポートは、「公平な学

びの機会の提供を、日

常の学生支援を拡大する

機会と考えています。医

師をはじめ、心理士や作

業療法士など援助専門職

が介入するケータイ電話

の機会と組織の専門性を

両立させることが可能

と思われます。

○ピアサポートと居

場所の創出

――次の質問です。ピ

アサポートが機能する上

にあたっては、誰にどう

のような場合に、どうい

う判断を委ねるのかを

明確にする必要がありま

すね。また、議論される

側もメリットだけでなく

デメリットも理解した上

で責任をもつて対応に

あたる組みが不可欠で

思っています。

伊藤・本学のピアサ

ポートは、「公平な学

びの機会の提供を、日

常の学生支援を拡大する

機会と考えています。医

師をはじめ、心理士や作

業療法士など援助専門職

が介入するケータイ電話

の機会と組織の専門性を

両立させることが可能

と思われます。

○ピアサポートと居

場所の創出

――次の質問です。ピ

アサポートが機能する上

にあたっては、誰にどう

のような場合に、どうい

う判断を委ねるのかを

明確にする必要がありま

すね。また、議論される

側もメリットだけでなく

デメリットも理解した上

で責任をもつて対応に

あたる組みが不可欠で

思っています。

伊藤・本学のピアサ

ポートは、「公平な学

びの機会の提供を、日

常の学生支援を拡大する

機会と考えています。医

師をはじめ、心理士や作

業療法士など援助専門職

が介入するケータイ電話

の機会と組織の専門性を

両立させることが可能

と思われます。

○ピアサポートと居

場所の創出

――次の質問です。ピ

アサポートが機能する上

にあたっては、誰にどう

のような場合に、どうい

う判断を委ねるのかを

明確にする必要がありま

すね。また、議論される

側もメリットだけでなく

デメリットも理解した上

で責任をもつて対応に

あたる組みが不可欠で

思っています。

伊藤・本学のピア